

2021年度 団役員発表

団長	田口 一登
幹事長	江上 博之
政審委員長	岡田 ゆき子
財務委員長	さはし あこ
広報委員長	さいとう 愛子

4月27日、名古屋市議団は市政記者クラブで会見し、2021年度役員を発表しました。

会見で田口団長が市長選挙の結果を踏まえて新年度の抱負と決意を述べました。

その内容を紹介します。

市長選の結果について

市長選挙で日本共産党が自主的に支援した横井利明さんがあと一歩及ばず、勝利できず残念でした。横井さんの大健闘をたたえたいと思います。

今回の市長選挙では、知事リコール署名によって壊された民主主義を取り戻す為に、運動の中心人物だった河村市長の再選を許すかどうか最大の対決となりました。河村市長は再選しましたが得票数も得票率も過去最低で、投票日の出口調査でもリコール問題での市長の対応に「問題あり」が57%（NHK）、署名偽造問題を考慮し横井さんに投票した有権者が56.5%（新聞社共同）となったことから、市長は責任もまぬがれたわけではなく、ひきつづき河村市長の政治的道義的責任は追及されなければなりません。

コロナ対策に全力つくす

選挙戦で横井さんが公約した若者への無料検査などPCR検査拡充や速やかなワクチン接種などコロナ感染拡大から市民を守る取り組みに市議団は全力を挙げます。

今回の市長選挙では河村市長の再選阻止、民主主義を取り戻すために政党の共闘体制が作られました。政党と市民の大同団結で大義あるたたかいが出来ました。他会派と信頼関係を深めることが



出来ました。これを土台に一致点に基づく議会内共闘を迫ります。

同時に自民・公明とは国政では与野党の関係であり、名古屋城天守閣木造化やり二ア関連開発、行政サービスの民営化など市政においても政策の違いがあります。大いに政策論争しながら河村市政にたいする最も厳しい対決者としての立場を貫いていきます。

いくつかの質問にこたえて

記者から「河村市長再選阻止のため減税以外の政党が一致して横井さんを推薦・自主支援したこと」についてきかれ、田口団長は「それほど河村市政がひどいということだ。民主主義を取り戻すという一点で共闘した」と述べました。

河村市政の課題で解決していかなければいけないことについては、「急がなければいけないのはコロナ感染拡大防止だ」と強調。選挙戦で横井さんが公約したPCR検査拡大やすみやかなワクチン接種などの実現を迫ると同時に、感染防止対策では河村市長を後押ししたいと述べました。また、給食費の無料化や要望の多かった敬老パスの利用回数制限撤回などの市民要求を届けていくことを表明しました。

最後に、来月行われる南区補選について「補選は党派間のたたかいになる。市政の課題や南区のみなさんの要求とともに、国政の課題でも大いに訴え、議席を獲得したい、そして、議案提案権を手にし、6つの常任委員会すべてに日本共産党の委員を配置したい」「地方議員の選挙ではあるが、日本共産党の議席をのばせば、その影響は国政にも及ぶ」「議席獲得に全力をつくす」と決意を述べました。